第３回　流域の水環境改善プログラム評価検討会

議 事 要 旨

日　時：平成 16 年 3 月 3 日（火）10:00～12：00
場　所：国土交通省　合同庁舎 3 号館 4 階特別会議室

1. 開会
2. 議事

(1) 流域の水環境改善プログラム評価書 案)の意見募集結果について

事務局より「流域の水環境改善プログラム評価書（案）の意見募集結果」について説明し、討議を行った。

・ 意見については、評価書に可能な限り反映するように。

(2) 流域の水環境改善プログラム評価書 案)について

事務局より「流域の水環境改善プログラム評価書（案)」ついて説明し、討議を行った。

・1.2.4（p2）一般的な都市河川として環境基準を満足している河川は２割であると読んだがそれで良いか。
→正確には「清流ルネッサンス 21 対象河川」であり、修正する。

・これに関連して 5.1（p97）の政策の必要性の「都市内河川」は、「清流ルネッサンス 21 対象河川」と修正すること。

・大和川はカントリーサイドを抱えた川で、東除川や西除川流域から農業系の負荷が来ている。このような、農業負荷の問題が除かれてしまうことが気がかりである。

・大和川流域は都市域ばかりでなく、山林や農地も含まれることをどこかに書いておく。

・4.2.4(2)②（p77）「改善傾向は明らかでない」ではなく「明らかな改善傾向はみられない」とする。

・3.4.4.(2)②（p95）に下水道整備や接続率の遅れが目標達成できない理由として書かれているが、計画どおり下水道整備や接続率が進めば目標達成できたか。目標が過大だったのか。
→予測においては予定どおり施策が進めば目標達成となる計画になっている。

・3.4.4(2)②（p95）は踏み込んで書いていて大変よい。これからの行政手法として一般公衆を巻き込んでいく事（協働）が大切である。

・5.2.2(p102)のところにパートナーシップについて書き込むことがあれば書き込む。あるいはここで言いたいことの方向性が見えるようなタイトルや副題を付けることも考えるとよい。

・効果的な重点投資の有無から効率性を評価しようとしているが、お金をかければよいというものではないので、まとめの部分において「効率的な重点投資を行った」という表現は、もう少し工夫が必要である。

・清流ルネッサンスに選ばれた河川は、このまま放置すると水環境を復活させるのにさらにお金がかかることから、早急に重点投資するという考え方を提示することで、重点投資の有無を効率性の評価に用いることにも理解が得られると思う。

・全て事業が効果的であったという必要はない。できる限り客観的に評価する。効率的であったところ、不具合があったところ、不具合を踏まえ今後改めるところを書くのが評価書である。

・河川と下水道、あるいは下水道と合併処理浄化槽との組み合わせなど、各事業の組み合わせがどうであったかは、効率性を定量的に評価する基準を作らなければいけない。

・効果があったことは確かであるので、自省的に書くほうが説得力がある。

・将来に繋げるよう前向きに書く。問題の所在はわかっているという書き方。

→下水道と河川浄化は性格の異なるものでなかなか同じ土俵で評価できない。一方で、流域の負荷対策であれば、ある汚濁物質を取り除く費用などで効率性を議論できる。下水道は水洗化や生活環境改善については効率性を議論しているが、水質保全を図る上での効率性は議論されていない。P102⑤の「合併処理浄化槽等との役割分担と連携」などにも表現しているつもりである。

河川と下水道の関係については、汚濁負荷を削減するということに関しては、河川浄化の速効性と着々と進む下水道が時間差攻撃となっていい組み合わせだったと思う。ただ、どの部分がどこまで効率性があってよかったのかについては評価が難しい。

・濃度が高いところで汚濁物質を除去したほうが効率的で下水道が一番いいのは分かっている。しかし濃度が薄くなったところでも取りきれないものを浄化することが河川に対するニーズとして必要で河川浄化はそういう面で不利である。

→下水道は河川や海をきれいにすることだけが目的ではない。河川浄化施設は河川をきれいにすること一点に集中してやる。最初に汚濁しているところを集中的にきれいにするのは効率がいい。ただ下水道が整備されてくると効率は下がる。

→緊急的に水質改善しなければならないという点を考えると、非効率なことはなかったと考える。

・河川の生態機能を活かした浄化（濃度の薄いものをとる）というものが一番お金が係ると思う。

・投入した事業費だけでは、河川の水環境改善の効率性を議論できないと皆さんお考えになっている。しかし、効率性の議論は定量的に行わないといけない気持ちも一方である。一種類の事業であれば相対的に評価できるが、異なる事業を同じ土俵で同じ数値換算では評価することは困難である。それは生態系、下水道、河川浄化、それぞれ異なる目的を持っているから単純に比較できない。

・今回の政策評価の作業のなかで、そういうことがわかってきた。政策評価において効率性の評価は難題であると書いてみてはどうか。先駆的かもしれない。いいアイディアが生まれるきっかけになる。

→清流ルネッサンス 21 は、参画したところがそれぞれにがんばりましょうという段階までしかできていない。その先が今回の評価の大事なところである。

それぞれの事業主体が重点投資して、それでよくなったというのではなく、どの事業に投資することが効率的か議論していかなければならない。短期間に効果を発揮するためにみんなでがんばって重点投資した。重点投資して効果があったからそれで満足しがちであるが、本当は重点投資するような施策が必要であったのか、重点投資で無駄な金を使っていないかというところを評価しなければならない。本来は、重点投資をしたことの是非を評価しなければならない。

・「本プログラムにおける当初の事業投資は最善の努力をしてきているという認識がある。しかし政策評価をしてみると改めて、重点投資のあり方に対して新しい評価をすることが必要となる。」というような一文が入ると立派である。今後に繋がる建設的な評価ができたと言える。

・5.2(p102)では、効率性の評価のあり方に関連して、今後は部局間を越えて、相互に関与しながら施策実施の評価を行うことも必要であり、難しい政策評価の課題が見いだされた、ということも書く。

→重点的投資をすることが必要ということに関して、社会的な背景のところに、「今重点投資しなければ回復に時間がかかってしまうので、関係する事業を総合的・重点的に実施する必要がある」と書く。それを受けて重点投資をしたことを評価のところで書く。

・本日の議論を踏まえて最終的な評価書のまとめを宜しくお願いします。

3. 閉会

―以上―